

2023年度の
神奈川公立高校入試問題(国語)に
掲載!

資料

環境省がまとめた「2022年環境意識調査」によると、自然環境を保全する意識は高まっているが、具体的な行動は取られていないという結果が出ている。また、自然環境を保全するために必要な知識やスキルを身につけておくことが重要であるという指摘も出ている。

グラフ

全国に占める農用地の割合

農用地の種類	割合 (%)
水田	10.5
畑	15.2
森林	35.8
草原	12.3
水域	8.7
宅地	17.5

※農用地は、水田、畑、森林、草原、水域、宅地を指す。

※資料は、環境省「2022年環境意識調査」より抜粋。

2022年度の
茨城公立高校入試問題(国語)に
掲載!

「I」を読んだ後に見つけた文章の「B」

環境省がまとめた「レッドデータブック」や自然の「レッドデータブック」など、絶滅に瀕する生物たちのリストを見て、これらの生物たちを守らなくてはならないと多くの人々が感じています。ただ、希少種、絶滅危惧種を守ることが目的ではなく、自然環境を保全するためにプロフェッショナルに携わっている人々には、絶滅に瀕する生物が生かされるべきという思いが込められています。絶滅に瀕する生物を保護するために必要な知識やスキルを身につけておくことが重要であるという指摘も出ている。

絶滅の危険にさらされている生物を保護するために必要な知識やスキルを身につけておくことが重要であるという指摘も出ている。

自然を取り戻すことが目的ではなく、トキが住める、多様性を保つ

五箇公一「これからの時代を生き抜くための生物学入門」による



これからの時代を生き抜くための
生物学入門

五箇公一 ◎著

辰巳出版



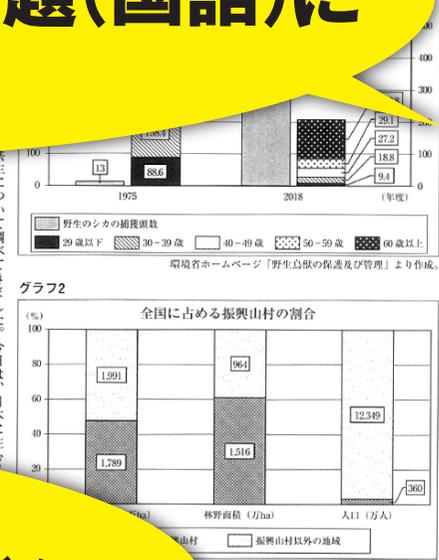
2023年度の 神奈川公立高校入試問題(国語)に 掲載!

問五 中学生のAさん、Bさん、Cさん、Dさんの四人のグループは、「総合的な学習の時間」で人間と自然の共生について調べ、話し合いをしている。次の資料、グラフ1、グラフ2と文章は、そのときのものである。これらについてあとの問いに答えなさい。

日本人は、古くから森を利用してきました。やがて森を加工し、水田や畑などの農耕地や居住のための開放空間を確保するようになり、その周りに自らの手で森を作り、奥山(自然林、雑木林、里地)という異なる生態系がつながりを持つ里山を作り上げてきました。

日本人は自然に手を加え、それを持続的に管理することで、自然との共生社会を完成させて、実在の時代から一万年の間、この狭い島国の中だけで完結して生きてきたとされています。

資料
【五箇公一】「これからの時代を生き抜くための生物学入門」から、部表記を改めたところがある。



2022年度の 茨城公立高校入試問題(国語)に 掲載!

【I】(I)を読んだ後に見つけた文章の一部)

環境省が編纂する「レッドデータブック」や市販の「レッドデータアニマルズ」など、絶滅に瀕する生物たちのリストを見て、これらの生物たちを守らなくてはならないと多くの人が感じるはずだ。

ただ、希少種、危惧種を守ること自体は目的ではなく、自然環境を保全するためのプロセスにすぎないことは理解しておく必要があります。絶滅に瀕する生物が生き残れさえすればいいという話ではないのです。絶滅危惧種を施設で増やすことが生物多様性保全ではありません。その動物を守るためにはどういった生息環境が必要かを考え、環境を復元する、修復するということが結果的に生物多様性と生態系を保全することにつながります。

絶滅の危機にあるトキでいうと、トキが息することができると環境を整えることができれば、かつての日本の自然を取り戻すことができたことになり得ます。トキという生物が環境修復のBとなるわけですが、中国産のトキを守ることが目的ではなく、トキが住める、多様性豊かな自然を取り戻すことが目的となるのです。

(五箇公一「これからの時代を生き抜くための生物学入門」による)

(7) 本文中の「」に入れるものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を○で記入しなさい。

1 二〇一八年度は二十九歳以下の狩猟免許所持者が一九七五年度のおよそ十倍増え、野生のシカの捕獲頭数も増えている。

2 一九七五年度は狩猟免許所持者のうち三十歳代が最も多かった一方で、野生のシカの捕獲頭数は二〇一八年度より大幅に少なかった。

3 一九七五年度は狩猟免許所持者の総数が二〇一八年度のおよそ四倍だったが、野生のシカの捕獲頭数は二〇一八年度より大幅に少なかった。

4 二〇一八年度は狩猟免許所持者の総数が一九七五年度の半数以下となり平均年齢が高くなっているが、野生のシカの捕獲頭数は増えている。

(8) 本文中の「」に当たる「Aさん」のことを、次の①②③④の条件を満たして書きなさい。

① 書き出しの「日本における人間と自然の共生」という視点で考える、という語句に続けて書き、文末の「」が必要とする語句に「な」を一文のように挿入すること。

② 書き出しと文末の語句の間の文字数が二十五字以上三十五字以下となるように書くこと。

③ 資料とグラフ2からそれぞれ読み取った内容に触れていること。

④ 「管理」「林野」という二つの語句を、どちらもそのまま用いること。

これからの時代を生き抜くための
生物学入門

五箇公一 ◎著

辰巳出版

